



はまなす季刊

医療法人はまなすHP ▶▶▶ <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人はまなす **篠路はまなすクリニック**

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人はまなす **はまなす医院**

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555



巻頭言

コロナ禍における 心積もり

理事長 工藤 岳秋

誰もが開催を危ぶんだオリンピックが、新型コロナウイルス第5波の最中に強行されました。変異したデルタ株の影響もあり、国内の一日当たりの新規感染者数は7月29日に1万人、8月5日に1万5千人を超え、その後も最多を更新しています。引き続き行われるパラリンピックでも患者の増加が見えられ、第4波で起きた医療崩壊の恐怖が再び迫ります。

流行が拡大し、無症状のウィルス保持者から感染する危険が高まっても、私たち市中のクリニクが萎縮するわけにはいきません。腹痛や外傷などはいずれも発生しますし、生活習慣病や腎臓病などの慢性疾患では、定期的な検査・治療が不可欠です。

幸いにして、当法人の110名を超える職員に、業務を通じての罹患はこれまでもありません。ワクチン接種後に発症する「ブレイクスルー感染」への不安はありますが、予防策を講じながら、引き続き地域における責務を果たしていく心積もりです。

創成川 ~その最下流に棲む魚たち~

医療法人はまなす 理事長 工藤 岳秋

札幌の川といえば、市街地へのサケの遡上で有名な豊平川が思い浮かぶ。しかし北区在住者にとっては、中心部から真北に向かい、東区と境をなす創成川の方が馴染み深いのではなかるうか。

慶応2年、飲用水、田畑の灌漑^{かんがい}などの目的で、「大友堀」の一部として現在の南3条から北6条まで開削されたのがその始まりである。明治3年には、「吉田堀」によって豊平川の分流である鴨々川と南7条付近で繋がれ、下流は「寺尾堀」として当時麻生を流れていた琴似川まで延長された。

「創成川」と命名されたのは同7年のことである。同28年に茨戸まで一直線に掘り進められ、14.8kmにわたる人工河川が誕生。石狩川経由で物資を運ぶ最短ルートとして、明治44年に馬車鉄道が敷設されるまで重要な役割を果たした。

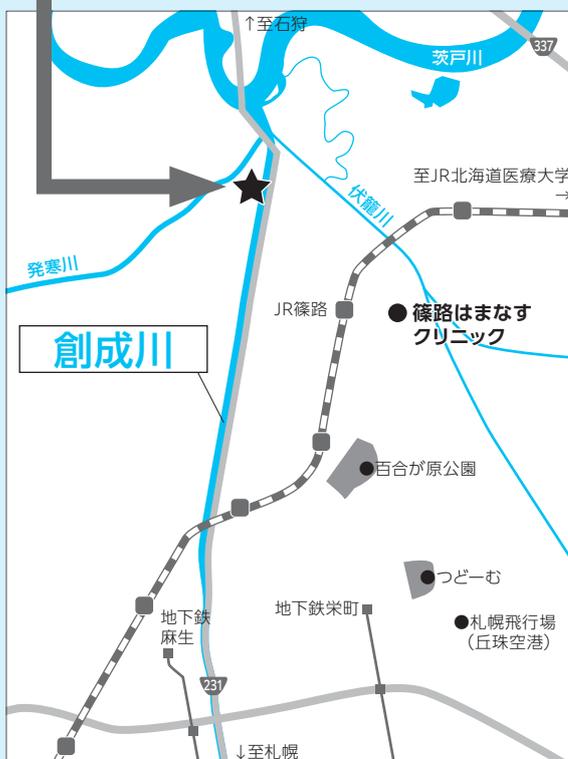
1世紀以上が経った今、よく目にするのは釣り人の姿である。椅子に腰を下ろして「ウキ」と呼ばれる浮標をじっくりと睨んでいる太公望から小物と遊ぶ家族連れまで、数多くの市民が足を運ぶ。篠路から程近い西茨戸の水門付近は、水際に柵が設置されていて安全そうなので、小学生の子供二人を連れて出かけてみた。

川と並走している国道の騒音が少し気になるが、背後には住宅街が広がり、のどかな雰囲気だ。50cmほどのコイが水面近くをゆらりと泳いでいる。糸を垂らしてしばらく待っていたところ、長男の竿が力強く引き込まれた。25cm弱のフナ（マブナ）である。底近くを泳ぐ魚で、これほどのサイズには簡単にお目にかかれない。続いて私のウキも水中に沈んだ。が、手応えが無い。10cmに満たない小物が上がってきた。ヌマチチブだ。お腹に吸盤があり、川底に貼り付いているハゼ科の魚である。気を取り直し、もう一度ミミズを付けて仕掛けを投入。どのくらい待ったであろうか。今度は手元に伝わる感触が重々しい。よし、本命が来た、と小躍りして喜びかけたが、暴れ方がどうも不自然だ。なんと、川なのに手のひら大のカレイが掛かっている。いわゆる「外道」に翻弄され続け、次にフナの姿を見ることができたのは日没間際であった。

この辺りは最下流であるため生活排水の影響を強く受け、お世辞にも清流とは呼べないが、様々な魚たちの棲み家となっている。道都を創成するために切り開かれた水路で釣りを楽しんでいる私たちは、先人に感謝するとともに、今日、遅く生き抜いている彼らにも敬意を払わねばなるまい。



西茨戸の風景



フナ（マブナ）



ヌマチチブ



ヌマガレイ
(淡水にも生息できるカレイ)

参考 ・札幌市ホームページ エピソード・北区第4章、さっぽろ歴史物語、川のみめ知識
・国土交通省北海道開発局ホームページ 札幌開発建設部 治水100年

～空中の小さなハンター～ 石狩のチゴハヤブサ

はまなす医院の西側に防風林が南北に伸びており、その背後にはのどかな畑作地帯が広がっている。そこで5月下旬のとある日、甲高い「ピー、ピー、ピー」という鋭い鳴き声を耳にした。それはツバメに似た流線形で素早く飛ぶ。家屋のアンテナや防風林の枝にとまっては周りを威嚇している。タカの種類のようなのだが、トンビよりは小さく、色合いも違う。よく観察して図鑑で調べてみると、正体はチゴハヤブサであった。それ以降、同一の場所で何度も見かけるようになり、私にとってお馴染みの鳥となった。



ハヤブサの種類は世界最速の鳥として知られ、獲物を追う際は時速100kmで飛行する。私も空中で小鳥やトンボを捕獲する姿を目撃しているが、目で追うのに苦労する速さだ。世の中に新幹線や小惑星探査機などで「はやぶさ」と名付けられたものがあるのは、大いに納得がいく。

チゴハヤブサは絶滅が心配される状況ではないものの、少しずつその数を減らしている。車や風車にぶつかって命を落とす個体も少なくないようだ。はまなす医院周辺にも風車が林立しており、今年の春には大型スーパーがオープンした。住みにくい環境になっているのではなからうか。ぜひこの先、近隣の自然環境が保存され、ここで繁殖した若鳥が毎年戻ってきてほしいものだ。



チゴハヤブサは猛禽類の中では比較的小さい。小型のハヤブサという意味で「チゴ（稚児）ハヤブサ」と名付けられた。頭から背中にかけて灰黒色で翼は長く、羽を閉じると尾羽より後ろに突き出る。白地の胸元には縦縞模様があり、うっすらオレンジ色がかった色をしている。鋭い眼つきをしているが、全体に丸い顔立ちでよく見ると愛嬌がある。インド北部で越冬した後、5月頃に北海道と東北地方へ飛来し少数が繁殖する。私もこの鳥がつかいで止まっているのを何度も目にしている。一般に森林地帯周辺の草原や低木地、農耕地などに生息し、毎年同一の個体が同じ場所へ渡ってくるという。石狩の農村地帯はまさにチゴハヤブサの好む環境であり、私が見たのもリピーターである可能性が高い。





篠路五ノ戸の森緑地

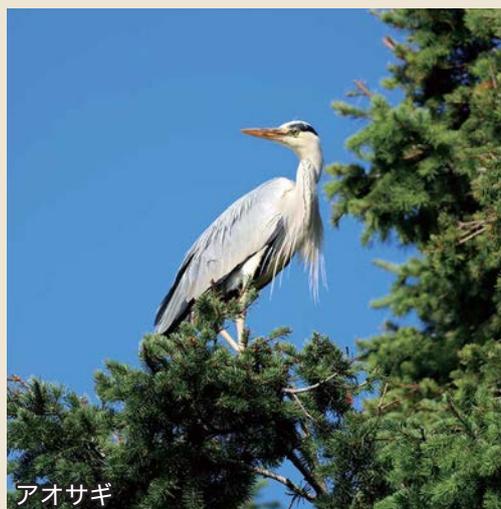
篠路はまなすクリニック界隈の住宅街に、木々が鬱蒼と茂る一角があります。ここは明治から大正にかけて造成され、札幌市が1997年に公園として整備しました。面積は中島公園の10分の1ほどしかありませんが、森の中には小川が流れており、遊歩道があります。私が5月上旬に訪れた際にはエゾエンゴサク、オオバナノエンレイソウ、ニリンソウといった花々を見ることができました。また樹上ではたくさんのアオサギが営巣しており、その他にもシジュウカラ、アカゲラなど多くの野鳥を目にしました。特に5月の連休頃が花の美しい時期で、散策に最適です。ご興味のある方はぜひどうぞ。



公園内のミニ展望台



エゾエンゴサク



アオサギ

聚富原生花園

石狩市厚田区^{しづぶ}聚富地区に原生花園があります。北石狩衛生センターの北側に位置し、石狩川河口右岸に広がっています。以前に石狩市環境保全課の方より教えていただいたことがあり、6月末に行ってみたところ、札幌ドームの1.5倍ほどの草原にハマナスやエゾスカシユリがたくさん咲いていました。7～8月にはエゾカワラナデシコも咲くとのこと。石狩市の条例で定める海浜植物等保護地区に指定されており、原生花園内に遊歩道はありませんが、車道からでも花々を鑑賞することができます。札幌中心部から1時間以内で行ける距離にありますので、厚田方面へのドライブのついでに立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



エゾスカシユリ



ハマナス



華岡青洲の妻

医療法人 会長 工藤 謙三

有吉佐和子の小説・華岡青洲の妻は発表当時ベストセラーになった(昭和41年)。早くも翌年には映画化され、後に新劇の舞台でも上演されたので、ベテランの映画ファンならばご存知の方も多いのではなからうか。

華岡青洲は世界で初めての全身麻酔による手術を成功させたことで医学史にその名をとどめている。以下にウイキペディアから抜粋する。

『華岡 青洲(はなおか せいしゅう、宝暦10年10月23日(1760年11月30日) — 天保6年10月2日(1835年11月21日))は、江戸時代の外科医。記録に残るものとして、世界で初めて全身麻酔を用いた手術(乳癌手術)を成功させた[1]。欧米で初めて全身麻酔が行われたのは、青洲の手術の成功から約40年後となる[1]。』

映画は、市川雷蔵が演ずるところの華岡青洲が研究を重ねて全身麻酔薬を創り出す。この麻酔薬をめぐって、最初にだれが実験台になるのかがテーマとなる。

青洲の妻と、実の母の、二人の女性が人体実験ともいべき全身麻酔を受ける役割を申し出る。青洲は危険を伴うこの役目をどちらに与えるのか？一見美談に見えながら、嫁・姑の確執による意地の張り合いは命がけの様相を帯びてくる。

結局、若尾文子演ずる妻がこの重大な役目を果たすことになる。だが結果的に副作用によって失明するという悲劇を生む。

妻として夫から本当の愛を得ているのか、息子を妻に渡すまいとする母親の意地がまさるのか、じつは、女の心のぶつかり合いが全編に緊張感をみなぎらせるのである。

主役の市川雷蔵は憧れの俳優だった。当世の若い方にはなじみがないかもしれないが、私は大ファンだった。私より15歳年上。物心ついたときから、銀幕のスターだった。

弁天小僧、大菩薩峠、眠狂四郎ねむりきょうしろうなど、子供心にカッコいいなあとおこがれたものだ。のちに座頭市シリーズで名をはせる勝新太郎とは大映のニューフェイスとして同期生であった。惜しくも昭和44年、37歳の若さで肝臓がんで亡くなってしまふ。大きく扱われた当時の新聞記事のことを今もはっきりと思い出すことができる。

映画スターが亡くなってほんとうに悲しいと思ったのは後にも先にも彼をおいてほかはない。華岡青洲の妻のような文学作品はもとより、大菩薩峠に見る机龍之介つくえりゅうのすけのニヒルな役も、その野太い声で見事に演じきった。歌舞伎俳優から転じただけにセリフの言い回しはしっかり、はっきりと心に届く。その音声は私の耳に今なお残響を響かせている。

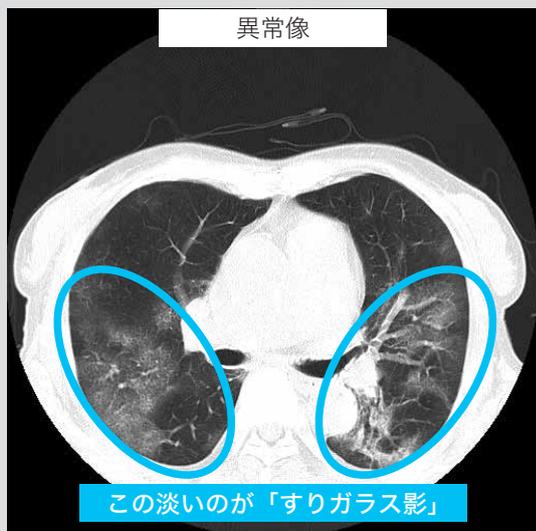
外科医・華岡青洲を演じた彼が、そして何より原作者の有吉佐和子(昭和59年逝去)が、今日に生きてコロナ・パンデミックの世の中を見たら何を思うだろう？奇しくもともに昭和6年生まれで存命ならば90歳。もっと活躍してほしかった。今さらながら哀惜の念に駆られている。

新型コロナウイルス肺炎のレントゲン

放射線技師 水野 篤司



正常像



異常像

この淡いのが「すりガラス影」

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)に感染した場合、肺炎になっているかを調べることはとても大事です。肺炎を調べる検査としてレントゲン写真やCT検査などの画像検査があります。レントゲン写真は簡便ですが、肺炎が軽度の場合気づかないことがあります。CT検査ではその軽度な場合でも見つけることができます。肺炎画像の特徴としては「すりガラス影」と言われる「淡い肺の変化」が見られます。正常な肺は大部分が黒く、所々に白いものが見られます。それに対し「すりガラス影」がある肺というのは黒い部分にモヤがかかったような画像となります。この所見はCOVID-19肺炎だけではなく他のウイルスが原因の肺炎でも見られます。CT画像だけでCOVID-19が原因とは言い切れませんが、「すりガラス影」があれば異常であり何かしらの処置・治療が必要になります。またCT検査では肺炎の存在を確認するだけでなく肺炎の広がりなどを見ることで重症度の判定もできます。有用なCT検査ですが実はガイドラインでは推奨されていません。その理由は検査室の汚染による二次感染の心配があるからです。CT検査を行うたびに装置を捨てるわけにはいきませんので使用後は消毒を行わなければなりません。患者が触れたところを中心に消毒を行い、また部屋の換気も行います。消毒も換気も時間はかかります。通常、胸のレントゲン撮影であれば入室から退室まで5分とかかりません。部屋に入り装置の前でパシャッと一枚撮るだけです。X線の照射時間に至っては1/100秒程度、一瞬で終わります。

CT検査であれば入室から退室までで15分程度、X線の照射時間としては1分ぐらいでしょうか。ところがCOVID-19では倍以上の時間がかかります。準備や使用後の消毒が必要になるためです。準備としてはまず手袋・帽子・フェイスガード、そして割烹着のような防護服を着用します。感染患者に触れた後に装置を操作することを避けるため患者入室前に患者情報などの装置の準備を行います。検査後の消毒は患者の触れたところや患者接触後に自分が触れたところを重点的に行います。放射線検査室は放射線が漏れないように密閉度が高い部屋なので換気の時間を長めに取ります。そのため検査が立て込んだ場合は大変です。「早く検査をしなければ」とは思いますが消毒をしっかりとしなければ後から検査を受けた人が感染ということになりかねません。こればかりはどうしようもありません。

今後ワクチンが普及し感染者の減少とともに検査件数も減るでしょうが、有効な治療方法がないのでまだまだしばらくは厳重な感染対策が必要です。早くCOVID-19が収束することを願いつつ、気を抜かず業務を行っていきたくと思います。

アキレス腱断裂の治療〜今は昔

左のふくらはぎに激痛が走った。壁にめぐらしたツルバラを眺めながら後退したその瞬間に穴に落ちたのである。いや、正確には穴のへりにつま先を置いたまま、踵だけ落ち込んだのだ。引き延ばされた腓腹筋が悲鳴を上げている。どうやら腱が切れたようだ。

かれこれもう5、6年になるだろう。踵に慢性的に痛みが続いていた。右と左、両側同時に、或いは片方ごとに、時に軽快しながらも完治するとはなく断続的かつ慢性的に私を悩ませていた。

指でアキレス腱をつまみながら上から下へと辿っていくと一番下の踵のあたりが激しく痛い。つま先を使うことができず、ベタベタと足を運ぶから、歩く時に杖が要る。安静にしていると痛みはない。夜もよく眠れる。極力気にかけないようにして打つちやっっておいたところ、昨年の秋には痛みが消えた。そこでこの冬スキーに出かけた。

2年ぶりだった存外うまく滑ることができた。それが病みつきになった。

うれしくなって日曜日ごとにあちこちのスキー場をはしごするうちに3月に入って斜面はアイスバーンになった。クッションのない堅いピステに体力を消耗し、左の力カトにあの忌まわしい痛みが再燃した。

このとき安静を保っていればいいものを、筋力の低下を防ぐのだとばかり、むきになって歩くことにこだわった。のみならず、医院の3階の自室までの階段を、手すり杖をたよりに連日昇降し

た。踊り場ごとに9段、合計54段を昇るあいだに、スタッフがためらいがちなながらもスタスタと追い越していくこともあった。

3月はバラの剪定の時期である。

周囲にまだ雪が残っている中でツルバラを剪定するにはタイムリミットである。枯れ枝を払いながら去年成長した長いシュートを壁面に配置しなおすが、このとき梯子を上り下りしてアキレス腱にさらに負担がかかった。歩を運ぶごとに力カトが焼け付くように痛む。そんなとき、穴に落ちた。散水栓の丸い穴が口を開けていたのである。

5月3日の朝、小雨の降る肌寒い日だった。壁一面に広がったツルバラのデザインを見直そうとうしろへ引いたその刹那に事故は起こった。万事休す、とはこのことである。

ところがこのあと不思議なことにアキレス腱から痛みが消えたのである。足首はゼンマイ仕掛けの人形が壊れたようにカクカクしている。だが、長年悩まされてきた痛みが完全に消失してしまつた。フツキレタように痛くない。

とはいえ、この先どうしたものか? ゴールデンウィークのさなかで、まともな医療機関は開いていない。ギブスシーネを自前でほどこした。

アキレス腱の手術は外科医として私自身多数手がけてきた。今後の見通しもよくわかっている。そして何よりも私にとってアキレス腱の断裂は二度目のことなのだ。

30年ほど前にテニスのプレー中に右側を負傷し

て手術を受けた。それゆえに患者としても十分な経験を踏んでいる。だが今回できれば手術は避けたい。

連休が明けるのを待ってなじみの整形外科病院を受診した。果たしてすぐさま手術が必要である旨を宣告されてしまった。断裂した部位が最下部であるため、切れた腱の上部を力カトのホネに縫いつけるといふ。もって冥すべしである。

この稿を書いている現在、術後5週間目、経過は順調のようである。しかしながら以前の右足のときとは様子がずいぶん異なっている。圧倒的にリハビリが進歩したのである。手術後2日目から足の指の運動が始まって、3週間後にギブスを外して装具を付けた。ゴツイ装具だが必要に応じて取り外してマッサージができる。平行棒につかまりながら屈伸などの運動も開始された。入浴もできる。

その昔6週間ものあいだ下腿ギブスをはめたのち、やっと運動療法が開始されたことを想うと、隔世の感を禁じ得ない。

しかしながら40歳代前半と、75歳の現在と、年齢による治癒力の差が存在する。

この老化の差を早期のリハビリによってどのくらい埋められるのか、目下、我がことながら他人事のように興味のみで眺めている。

壁のツルバラは6月に入って幾千もの蕾が膨らんで、早咲きの種類はちらほらとほころび始めた。病めるアキレス腱をさすりつつ満開になる日を待ちわびている。

篠路はまなすクリニック透析センター増築 地鎮祭が行われました



7月4日（日）、篠路はまなすクリニック透析センター増築工事の地鎮祭が執り行われました。透析患者さんは全国的に増加しており、当院でも満床に近い状態が続いています。また、新型コロナウイルスの蔓延を受け、感染症患者専用ベッドの必要性が高まっています。先日篠路はまなすクリニックでも透析患者さんからCOVID-19が発生してしまいましたが、入院受け入れ先がすぐに決まらず、やむなく自院で隔離透析を行うという事態になりました。

そこで現在の透析室の北側に建物を延長し、およそ150坪の建坪に血液透析用ベッドを15床（感染者専用が2床、準感染者用が3床、一般ベッドが10床）増床します。これで新たに40名の患者さんに対応することが見込まれます。22年3月新棟完成をもって使用を開始します。また、併せて既存の建物の改修も行う予定で22年7月にすべての工事を完了します。コロナ禍にあって感染対策をしながらの工事は困難なことが予想されます。無事に建物が完成することを祈願しました。



編集後記

不要不急の外出を控えるようになり、行きたいところにも行けない状況が続いています。はじめはそのことがストレスでしたが、それに慣れてくると今度は外出がおっくうになってきました。気力もやる気も確実に失われつつありますが「いやいや、そんなことに慣れてはいけな！行きたい所や、やりたい事をリストアップしその日が来るのを楽しみに待とう！」と、しぼんでいく心を奮い立たせています。

(A・H)

はまなす医院
看護助手
佐伯 幸子さん



新
入
職
員
紹
介